

とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2025.1 January vol.69

十一月定例議会

多様な学びの場の確保

フリースクールへの支援を

11月定例議会では、物価高騰対策等の一般会計補正予算案や決算審査などを行いました。すべての議案が全会一致または賛成多数により可決しました。

今回は一問一答形式で一般質問をしました。フリースクールへの支援やいきいきと働くことができる職場づくり、中国との交流について質問しました。

ワーク・イン・ライフ

「自分らしい生き方の中に、自分らしい働き方がある」という考え方の「ワーク・イン・ライフ」についての島根大学教授の宮本恭子さんの評論に、これからの仕事の在り方を考える機会にと質問に取り上げました。ゆとりを持った生活をしたい、子どもや家族と触れ合う時間を大切にしたいなど自分が目指したい豊かな人生を実現することを主体にして、その中に働くということをどう位置づけ、どういった働き方

をしてのいくかという、働く側の意識に重点を置き考える「ワーク・イン・ライフ」の視点で働き方を考えていくことがこれから必要ではないかと考えます。

「ワーク・イン・ライフ」という考え方についてどのよう

な所感をお持ちなのか。

知事 人生をトータルマネジメントするという中で仕事をマネジメントするということがと理解する。仕事と仕事以外のことを大切にし、両立できる職場環境づくりや、管理職や経営者の意識啓発、働き方

改革、柔軟な働き方に取り組み企業を支援していく。

従業員それぞれの

人生を大切にしたい働き方についての啓発の取り組みを伺う。

商工労働部長

従業員が多様な柔軟な働き方できる職場づくりには経営者の理解が大切と考え、経営者等を対象に、人を大切にする経営を学ぶセミナー「人財塾」を運営。これまで340名が受講され、従業員が生き生きと働く職場づくりを実践されている。優れた企業の取り組みに



不登校の児童生徒にとってフリースクールの果たす役割は大きいですが、フリースクールに対しての行政からの支援や学校との連携などは、まだまだ不十分といっている状態です。県は今年度、フリースクールの実態把握に努められています。

学校にはスクールカ

ウンセラーやスクールソーシャルワーカーが配置されているが、フリースクールもその配置の対応にすべきではないか。

教育長

施設の中にはカウンスラーやソーシャルワーカーを配置しているところもあるが、すべてのフリースクールの状況を把握していないため、次の会では、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーも参加して議論したい。

フリースクールへの支援に

ついてどのようにお考えか。

教育長

フリースクールとの関係では、出席認定や学習

評価の課題があり、これらの改善を図っていく。そのうえで支援の在り方について文科省の見解も踏まえ市町村と協議していく。

中国との友好交流

先日、中国の寧夏回族自治区を訪問してきました。現地で聞いた声をもとに、今後の国際交流についての県の考えを聞きました。寧夏回族自治区の首府銀川市の担当者は、青少年交流で寧夏から参加した若い人たちが今、寧夏で活躍しており、青少年交流の必要性を強調しておられました。相互交流によって、生活や文化の違いを体験し相手国のことを知ることが青少年の視野を広げ、その後の学びや成長に大きく影響するものと考えます。

今後の中国との友好交流に

ついての考えを聞く。

知事

自治体間の交流をもとに自主的な交流が広がっている。これまで培われてきた交流は貴重な財産として、この先も交流先の意向を踏まえ、新たな交流の創出を図っていく。

新年を迎えて

新年あけましておめでとうございます。昨年元旦早々、能登半島地震が起き甚大な被害をもたらした上に、復興に向けた被災者の気持ちを萎えさせるような9月の集中豪雨に、自然の脅威と無常さを感じた年でした。集中豪雨は全国各地でも頻発し、気候変動による災害への対応、さらには地球温暖化への対応が求められています。

目を転じれば、世界各地で戦争や紛争に多くの無辜の民が犠牲になっています。昨年末の被団協のノーベル平和賞受賞は、こうした社会情勢に一石を投じるものでした。

私たちは身の回りの課題にどう対応すべきか考えていく必要があり、私もそのことを念頭に県内の課題解決に向けて精一杯努力してまいります。

角 智子



ワカモノ会議

11月30日、島根大学ポリレンジャーの企画による「ワカモノ会議」に参加しました。参加した議員には学生からの質問に答えるようになっていて、若者の政治参加、主権者教育、金融教育の実施、障害者支援、子どもの貧困対策などについて参加した8名の県議会議員、市議会議員が

また、グループでのフリートークなど3時間にもわたったのは、とても充実したものでなりました。若い人たちは決して政治に無関心ではなく、政治にながって行くきっかけさえあれば、若い人たちの思いが政治に生かされていくということを認識する機会となりました。



学生からの質問に答える

発行者 角 智子 〒690-0063島根県松江市寺町67-23
TEL.(0852)28-8880 FAX.(0852)28-8881
E-mail sumi@tomachan.net
U R L http://www.tomachan.net/

とまちゃん通信

島根・鳥取県議会合同研修会

鳥取県議会合同研修会「民主県民クラブ」と鳥取県議会合同研修会「民主とつとむ」との合同研修会を11月11～12日に鳥取県で行いました。

田舎の魅力を発信

天然酵母を使ったパンづくりなどに取り組む「タルマーリ」でオーナーの渡邊格さんからお話を伺いました。天然酵母にこだわり、東京近郊でパン作りを始めましたが、いい酵母に巡り合わず、場所を変えていくうちに鳥取県の智頭町にたどり着いたとのこと。

天然酵母はなかなか自然界の中から採取することは難しく、特に最近では、農作業での化学肥料や殺虫剤などの使用でさらに難しくなっているとのこと。数年で一回ということもあるとのこと。化学肥料や農薬に頼らない自然農業を地域で広めていくことで、安全な農作物をつくることにもなり、また、古民家を再生してパン工房やレストランなどをつくることで、地域活性化にもつながっているとのことでした。

次に訪ねたのは、2015年に発足した地域の若手林業家と移住者がつくる自伐型林業集団「智頭ノ森ノ学舎」で、この団体の活動する國岡将平さんに話を聞きました。この団体は、林業が盛んな町で新規参入者の育成や若手林業者同士の連携、町有林の活用などに取り組んでいます。林業を通して「ここに住み続けることができるまちづくり」をめざして活動しています。

この日最後にお会いしたのは、移動本屋「アカゲラブックス」の店主加藤さんです。

「智頭ノ森ノ学舎」の会員でもある加藤さんは、長野県出身の京大卒で林業に関心をもって移住してきました。山だけに依存しない稼ぎをつくりたい、自分の好きなこと、特色を生かして仕事をつくりたいと、移動本屋を開業しました。イベントで出店したり、レストランや温泉宿などで委託販売をしたりして、本で人のつながりをつくることに取り組んでいます。お会いしたいずれの方も智頭町の豊かな自然を大切に、その中で生きる人たちのつながりをつくり、町の活性化に取り組まれています。都会にはない田舎の魅力を発信していくことが、移住者を増やし更なる町の活性化につながります。



アカゲラブックスの加藤さんを囲んで

自分で考える学び

二日目は鳥取市内で行い、最初に訪れたのは、NPO法人「ホームニカレッジ」が運営する森のようちえん「ばっか」です。ここでは自然に触れ、思いっきり遊ぶことで感性や感覚を身に付け、馬との触れ合いで相手を思う豊かな感を育んでいます。また、何事も自分で決めることを大切に、原っぱで草花を摘んだり走り回ったり、馬に乗ったり世話をしたりして、一日を過ごします。

この法人ではフリースクールやポニーキャンプなどにも取り組まれ、馬との体験を通して子どもの育成や居場所づくりなどに長い間取り組まれてきた中で、森のようちえんの取り組みが始まりました。大堀貴士理事長のお話を聴き、自然の中で遊びまわる子どもたちの無邪気な姿を見てみると、自然保育の良さや大事さを感じます。この幼稚園・保育園でも自然保育に取り組みされる環境が作られていくことを願うものです。

発展する首府銀川市

協定締結20周年記念に合わせ、11月18日から日本寧夏友好交流協会の訪問交流事業で中国寧夏回族自治区を訪れました。

19日に行われた記念式典には、松江市からオンラインで上定市長が参加されました。式典では今後の友好交流の発展を相互に確認し合っていました。午後からは、七子連湖コミュニティセンターを訪れ、高齢者支援、子育て支援や青年を対象にした生涯学習支援を市内自治区で取り組んでいる施設を視察しました。



銀川市の皆さんと

教育などを新しい教育手法で取り組まれ、文科省のスーパーサイエンスハイスクールの指定も受けています。中学生の時から身の回りの課題解決に取り組み探求学習により、自分でいろいろな人の意見を聴いたり調べたりしてレポートします。こうした学習の結果を最終学年で探求修了論文を書きます。そして、多くの生徒がその学習をもとに国内外の有名大学をはじめ進学先の大学を選び、進学しています。校舎は図書館の中に学校があるというコンセプトでつくられ、玄関を入ってすぐ

中国寧夏回族自治区訪問

振興する産業

また、各種の証明書の発行、社会保険などの手続き、起業申請など、様々な市民生活で必要な手続きや申請などの市民サービスを一つの場所で行う市民ホールを見学しました。日本より格段にデジタル化が進んでいる中国にあって、最も市民サービスの一元化が進むのが銀川市だそうです。できるだけ手続きの時間を省力化し、ワンストップ窓口サービスに取り組んでいます。

枸杞(クコ)博物館を訪問。枸杞の栽培の歴史や商品として品質を高める取り組みなどについて学びました。

日本の工作機械メーカーのヤマザキマザックの合併会社LG M a z a k を訪問。2009年に訪れた時よりもさらに工場も大きくなり、自動化も進んでいました。中国国内にも同業社が増えてきており、競争に勝ち抜くため、福利厚生充実や評価制度による昇給など人材確保に力を入れ、日頃

ホールは図書館のようになっているラーニングセンターがあります。この日は高校2年生が課題研究の成果発表に向けて、ラーニングセンターで教員や学友と意見交換や資料作りをしていました。それぞれが自由に主体的に学習している姿に感動しました。

成果発表には大学からも視察に來られ、生徒の発表の様子を見て推薦校に決められることもあるとのことでした。私立学校だからこそのことで、はありますが、公立学校との交流によって公立学校の先生も学ぶことが多いのではないかと

大学を中心に青年交流

4日目、警報が出るほどの濃霧の中、石嘴山市にある寧夏理工学院を訪問。この学生も県立大学に留学しています。今後交流を続けるため、1月には訪問団が島根県に來られる予定とのこと。

午後には長い交流の歴史がある寧夏大学を訪問。コロナで中断している長期休暇の間の学生の来県研修の再開を期待しておられました。これまで協会でも学生の受け入れを支援しており、再開されることを願っています。

植林など自然環境を守る

5日目は、呉忠市の農業博物館に出かけました。寧夏は、黄河

と感じました。様々な学びの場が各地にできていることを参考に、島根の学校でも個々のテーマでレポートできる探求学習に取り組まれることができればと思いました。



馬と遊ぶ森のようちえん「ばっか」の子供たち

の水と寒暖差を利用した野菜づくりが盛んです。中でも呉忠市はその中心地となるところで、その農業の歴史などを解説した博物館を見学しました。午後は西夏王陵へ。今回3回目ですが、来るたび整備が進んでいます。特に今は世界遺産登録をめざしており、りっぱな博物館も出ています。

最終日は島根県が交流事業で力を入れていた靈武市の植林の地に行きました。11年前はまだ砂地だったところが、今は林や草地になっており、寧夏の皆さんの植林に対する情熱を感じます。



寧夏理工学院書道クラブの皆さんと